

多様な遺伝子組換え作物に 対応可能な食品検査法の開発

成果の特徴

- 従来スクリーニング検査法では見落としの可能性があった安全性審査済み遺伝子組換え (GM) トウモロコシ 2 系統に特異的な定量分析法^{1, 2)}を開発・導入しました。これにより検査対象の見落としがないスクリーニング検査が可能となりました。
- GM トウモロコシ 系統を複数掛け合わせた (スタック) 品種の混入により、従来のスクリーニング検査法では、混入率が過大評価されることが指摘されていました (図 1)。そこで、スタック品種の混入に影響を受けないグループ検査法³⁾の開発・導入を行い (図 2)、スタック品種混入による混入率の過大評価を解消しました。

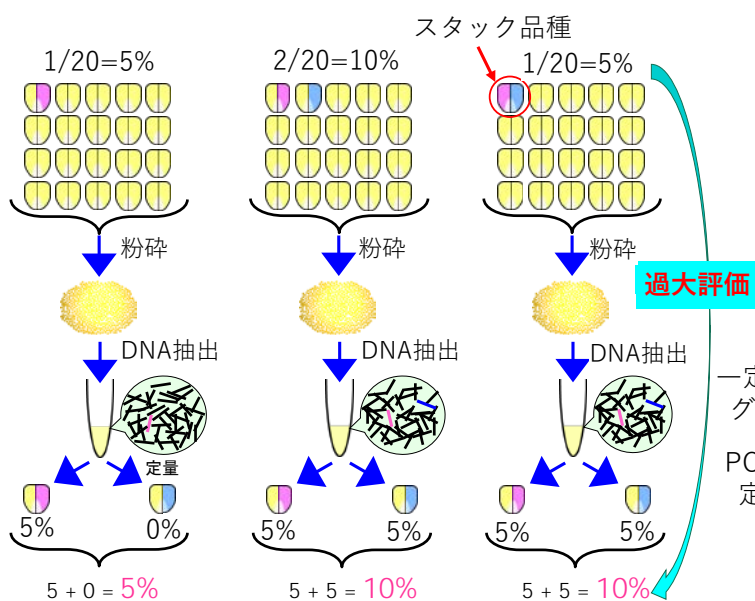


図 1. スクリーニング法による混入率の過大評価

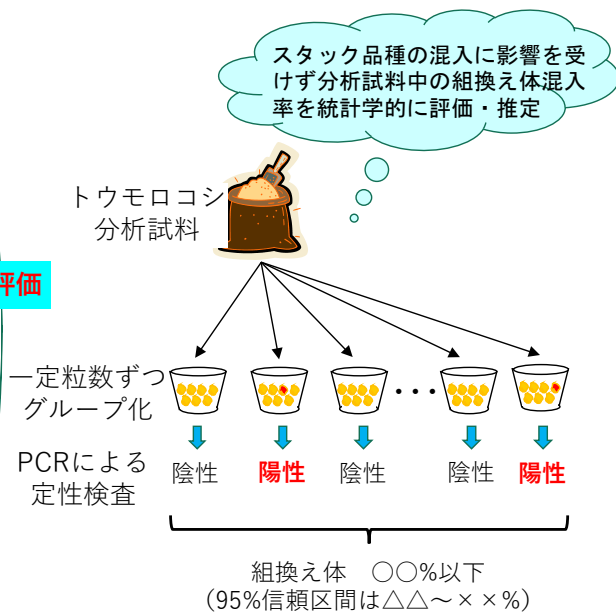


図 2. グループ検査法の概要

成果の活用

本研究成果は、平成28年11月に消費者庁通知検査法⁴⁾として公表されました。GM食品の表示制度を科学的に検証するための検査法の改良・整備が図られました。

参考文献

- Mano J. et al. (2012) *Food Hyg. Saf. Sci.* **53**(4):166-171
- Takabatake R. et al. (2014) *Food Hyg. Saf. Sci.* **55**(5):205-209
- Mano J. et al. (2011) *J. Agric. Food Chem.* **59**(13):6856-6863
- 消費者庁「食品表示基準について」の一部改正について (平成28年11月17日付け消費表第706号)